

**Canon**

**SPEEDLITE**  
**580EX II**



**J**

使用説明書

# キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。

キヤノンスピードライト580EX II は、E-TTL II/E-TTL/TTL自動調光システム/外部調光に対応するEOS専用大光量多機能ストロボです。通常のクリップオンストロボ、ワイヤレス多灯マスターストロボ、スレーブストロボの3機能をあわせ持つとともに、EOS-1D系カメラ同等の防塵・防滴性能を備えています。

## ● カメラの使用説明書もあわせてお読みください。

ご使用になる前に、この使用説明書とカメラの使用説明書をお読みになって理解を深め、操作に慣れた上で正しくお使いください。

## ● 基本操作は通常のAE撮影同様、簡単です。

580EX II をEOSカメラに装着したとき、**ストロボ撮影の自動露出制御のほぼすべては、装着したカメラによって行われます。**

この仕組みは、ストロボ内蔵式カメラの場合なら、どなたでもご理解されると思いますが、580EX II 装着時も「内蔵ストロボの代わりに大光量ストロボが外付けされたもの」とお考えください。

## ● 各カメラの調光方式 (E-TTL II/E-TTL/TTL) に自動対応します。

装着したカメラのストロボ制御方式に従い、次の調光方式で自動制御されます。

- ① E-TTL II 自動調光 (プリ発光記憶式評価調光/レンズの距離情報活用を含む)
- ② E-TTL自動調光 (プリ発光記憶式評価調光)
- ③ TTL自動調光 (フィルム面反射測光のリアルタイム調光)

各カメラに装着したときの調光方式については、カメラの使用説明書を参照してください。主な仕様『外部ストロボ』の項目に明記されています。



なお、カメラの使用説明書のストロボ撮影の章では、便宜上、①②を**Aタイプカメラ** (注: E-TTL II あるいはE-TTL対応カメラ)、③を**Bタイプカメラ** (注: TTL対応/E-TTL II、E-TTL未対応カメラ) と表記しています。

\* 本書では、**Aタイプカメラとの組み合わせを前提に説明しています。**  
Bタイプカメラとの組み合わせについては、55ページを参照してください。

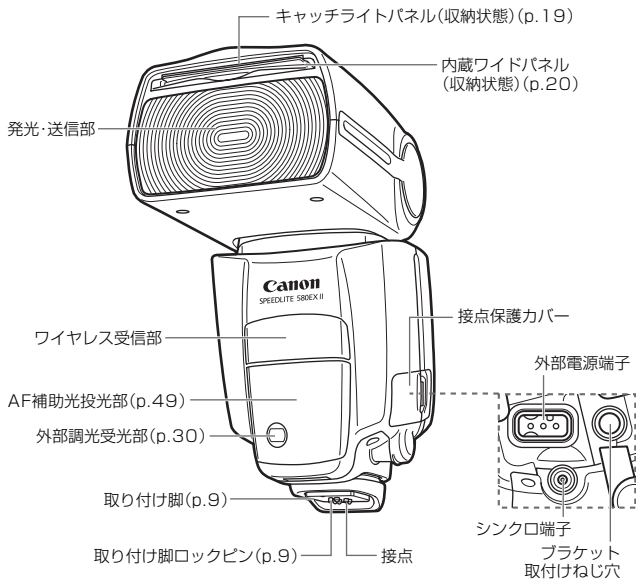
# 目次

|                     |    |
|---------------------|----|
| 1 使用前の準備と簡単な撮影..... | 7  |
| 2 ストロボ撮影応用編 .....   | 13 |
| 3 ワイヤレスストロボ撮影.....  | 33 |
| 4 資料 .....          | 47 |

## 本使用説明書上のおことわり

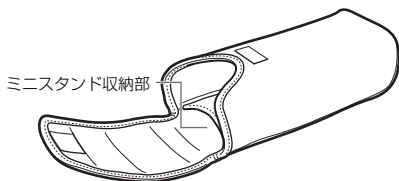
- 本文中の  は選択ダイヤルを示しています。
- 本文中の  ボタンは選択/設定ボタンを示しています。
- 本文中の **C.Fn** はカスタム機能を示しています。
- この使用説明書では、カメラとストロボの電源スイッチが入っていることを前提に操作方法を説明しています。
- 本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンやダイヤル、マークなど、ストロボやカメラ本体に表示されている絵文字を使用しています。
- (Ⓐ) / (Ⓑ) / (Ⓒ) マークはボタンから指を離しても、その状態がタイマーにより4秒間/6秒間/16秒間保持されることを示しています。
- (p.\*\* ) の\*\*部は参照ページを示しています。
- 本文中の以下のマークは、それぞれ次のような内容になっています。
- 🔊 : 撮影に不都合が生じるおそれのある注意事項が書かれています。
- 📖 : 基本操作に加えて知っていただきたい事項が書かれています。

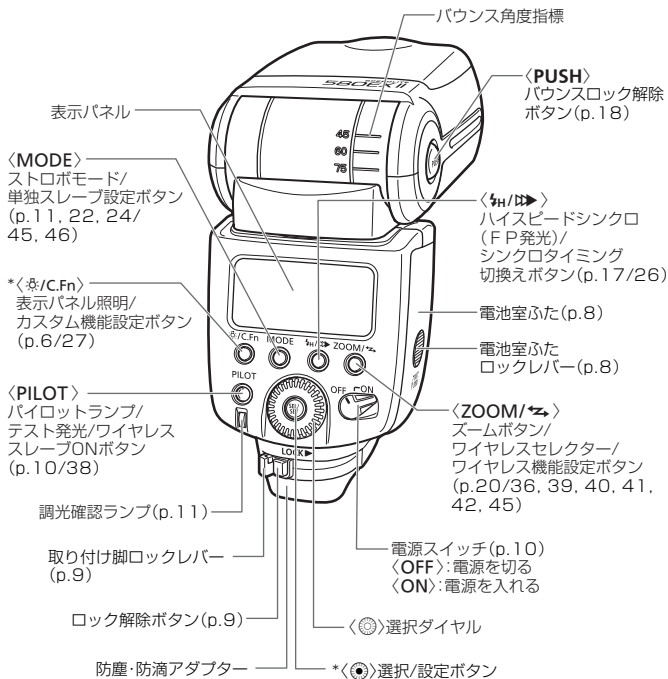
# 各部の名称



ケース

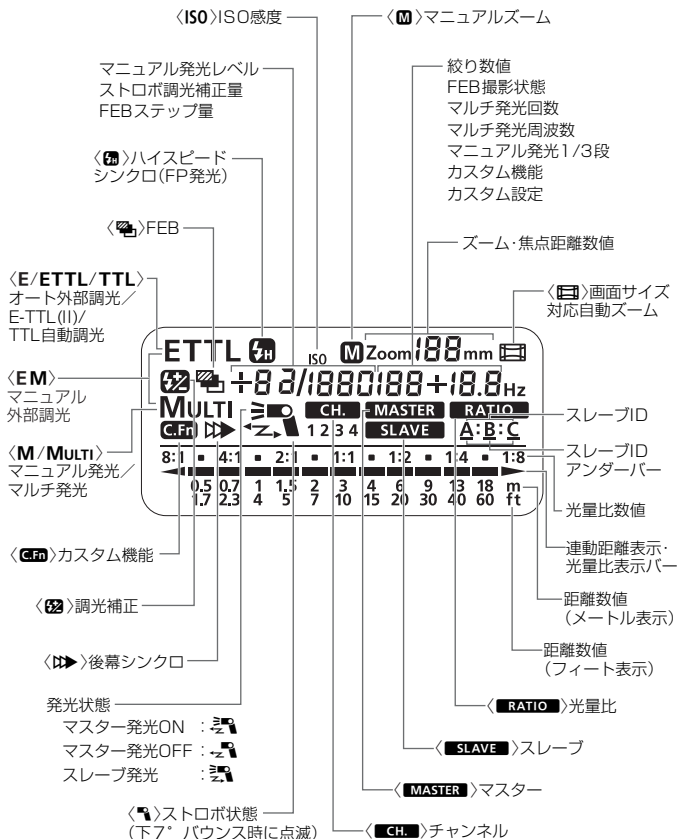
ミニスタンド





\* 印のボタンを押すと、タイマーの動きによりボタンから指を離してもその状態が8秒間保持されます。<⊙> の照明は12秒間保持されます。

## 表示パネル



- <Fn> ボタンを押すと、表示パネルが照明されます。
- 表示は状況に応じた部分のみ表示されます。

# 1

## 使用前の準備と 簡単な撮影

|                                  |    |
|----------------------------------|----|
| 電池を入れる .....                     | 8  |
| カメラに取り付ける .....                  | 9  |
| 電源を入れる .....                     | 10 |
| 全自動ストロボ撮影 .....                  | 11 |
| 撮影モード別E-TTL II/E-TTL自動調光撮影 ..... | 12 |

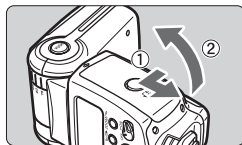


### 連続発光に関するご注意

- ストロボ発光部の発熱と劣化を防ぐため、連続発光は20回までとしてください。20回連続発光したときは、10分以上休止してください。
- 20回以上連続発光したあと、さらに、短時間に繰り返し発光を行った場合には、内部の発熱防止安全機能が働き、発光間隔が強制的に約8~20秒になることがあります。そのときは約15分休止すると、もとの状態に戻ります。

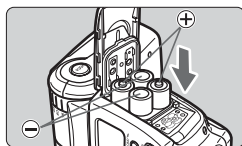
# 電池を入れる

電池は、単3形電池4本を使用します。



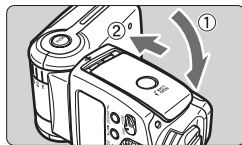
## 1 ふたを開ける

- 電池室ふたロックレバーを親指の腹側で深く押し、①の矢印に従ってスライドさせ、ふたを開けます。



## 2 電池を入れる

- 表示にしたがって、「+」「-」をまちがえないように電池を入れます。



## 3 ふたを閉じる

- 電池室ふたを閉じて、矢印の方向にスライドさせます。
- ➔ カチッと音がして、電池室ふたがロックされます。

## 発光間隔と発光回数（単3形アルカリ乾電池使用時）

| 発光間隔      |         | 発光回数      |
|-----------|---------|-----------|
| クイック発光    | ノーマル発光  |           |
| 約0.1～2.5秒 | 約0.1～5秒 | 約100～700回 |

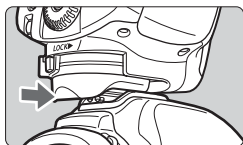
- 新品の単3形アルカリ乾電池使用、当社試験基準による数値です。
- クイック発光は、フル充電前にストロボ撮影できる機能です（p.10）。

- アルカリ乾電池以外の単3形電池は、接点形状が規格で統一されていないため、電池の種類によっては、接触不良を起こす場合があります。
- 連続発光後に電池を交換する場合は、電池がかなり熱くなっていますので、ご注意ください。

- 電池は4本とも新品で同一銘柄の電池を使用してください。電池の交換は4本同時に行ってください。
- 単3形のニッケル水素電池、リチウム電池も使用できます。

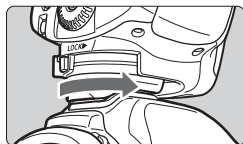


# カメラに取り付ける



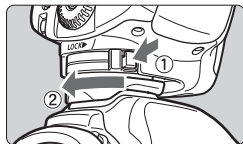
## 1 取り付ける

- ストロボの取り付け脚がアクセサリースューの奥に突き当たるまで、差し込みます。



## 2 固定する

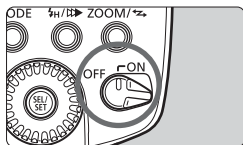
- 取り付け脚ロックレバーを、右方向へスライドさせます。
- ➔ カチッと音がしてロックされます。



## 3 取り外す

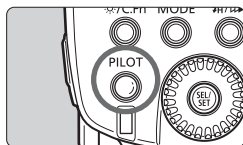
- ロック解除ボタンを押しながら、取り付け脚ロックレバーを左方向にスライドさせて、カメラからはずします。

# 電源を入れる



## 1 電源スイッチを〈ON〉にする

→ 充電を開始します。



## 2 充電を確認する

- パイロットランプの状態が、消灯→緑色（クイック発光可能）→赤色（フル充電）の順に変わります。
- パイロットランプを押すと、テスト発光します。

## クイック発光機能について

クイック発光は、パイロットランプが緑色の状態（フル充電前）でストロボ撮影ができる機能です。

ガイドナンバーは、フル発光時の1/2～1/6になりますが、近距離撮影で発光間隔を短縮したいときに有効です。

ドライブモードは、1枚撮影に設定してください。連続撮影、FEB、マニュアル発光、マルチ発光が設定されていると、クイック発光できません。

**C.Fn** ストロボ連続発光時にもクイック発光が行えるよう変更できます。（C.Fn-06→p.27）

## オートパワーオフ機能について

電池消費を防ぐため、一定時間（約1分半～15分）何も操作しないと、自動的に電源が切れます。もう一度電源を入れるには、カメラのシャッターボタンを半押しします。また、テスト発光ボタンを押すことでも可能です。

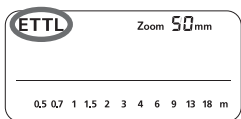
**C.Fn** オートパワーオフ機能を切ることができます。（C.Fn-01→p.27）



- テスト発光は、カメラの $\odot 4$ 、 $\odot 6$ タイマーが働いているときはできません。
- ストロボの設定状態は、電源を切っても記憶されています。電池交換時にも設定状態を保持したい場合は、電源スイッチを切った後、1分以内に電池を交換してください。

# 全自動ストロボ撮影

カメラの撮影モードを〈P〉(プログラムAE)、または〈□〉(全自動)にすると、〈P〉、〈□〉でのAE撮影と同じ操作で、「カメラまかせのE-TTL II / E-TTL全自動ストロボ撮影」を行うことができます。



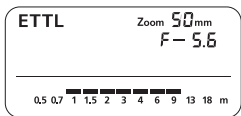
## 1 ストロボを〈ETTL〉に設定する

- 〈MODE〉ボタンを押して、〈ETTL〉を表示させます。



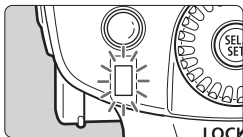
## 2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
- ➔ ファインダー内に、シャッター速度と絞り数値が表示されます。
- ファインダー内の〈⚡〉点灯を確認します。



## 3 撮影する

- 被写体が、表示パネルに示された連動距離範囲内にいることを確認して撮影します。
- ➔ シャッターが切れる直前にプリ発光し、続いてメイン発光します。
- ➔ 標準露出で撮影が行われたときは、調光確認ランプが約3秒間点灯します。



- E-TTL II 対応のカメラに取り付けた場合でも、表示パネルには〈ETTL〉と表示されます。
- 調光確認ランプが点灯しなかったときは、被写体に近づいて再度撮影します。デジタルカメラでは、ISO感度を上げる方法もあります。

## 撮影モード別 E-TTL II/E-TTL 自動調光撮影 ■

カメラの撮影モードを〈Av〉（絞り優先AE）、〈Tv〉（シャッター優先AE）、〈M〉（マニュアル露出）、に設定するだけで、それぞれの撮影モードに応じたE-TTL II/E-TTL自動調光撮影を行うことができます。

|           |  |
|-----------|--|
| <b>Tv</b> | <p>任意のシャッター速度を設定したいときに選択します。</p> <p>設定したシャッター速度に対し、カメラの測光で標準露出となる絞り数値が自動設定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 絞り数値が点滅するときは、背景が露出アンダー、またはオーバーになります。絞り数値が点灯するよう設定を変更してください。</li> </ul>  |
| <b>Av</b> | <p>任意の絞り数値を設定したいときに選択します。</p> <p>設定した絞り数値に対し、カメラの測光で標準露出となるシャッター速度が自動設定されます。</p> <p>夜景などを背景にした暗い場所では、主被写体も背景も標準露出となる、スローシンクロ撮影になります。主被写体はストロボ光で、背景はスローシャッターによる長秒時露光で標準露出となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 暗い場所では、シャッター速度が遅くなりますので、三脚を使用して撮影することをおすすめします。</li> <li>● シャッター速度が点滅するときは、背景が露出アンダー、またはオーバーになります。シャッター速度が点灯するよう設定を変更してください。</li> </ul> |
| <b>M</b>  | <p>シャッター速度も絞り数値も任意に設定したいときに選択します。</p> <p>主被写体は、ストロボ光で標準露出となります。背景の露出は、設定したシャッター速度と絞り数値によって変わります。</p>   |

- 〈DEP〉〈A-DEP〉で撮影すると、〈P〉（プログラムAE）によるストロボ撮影と同じ結果になります。





### 撮影モード別ストロボ同調シャッター速度と絞り数値

|           | シャッター速度の設定         | 絞り数値の設定 |
|-----------|--------------------|---------|
| <b>P</b>  | 自動設定（1/60～1/X秒）    | 自動      |
| <b>Tv</b> | 手動設定（30～1/X秒）      | 自動      |
| <b>Av</b> | 自動設定（30～1/X秒）      | 手動      |
| <b>M</b>  | 手動設定（buLb、30～1/X秒） | 手動      |

- 1/X秒は、各カメラのストロボ同調最高シャッター速度です。

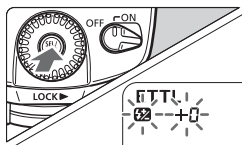
# 2

## ストロボ撮影応用編

|  |    |
|--|----|
|  調光補正 .....       | 14 |
|  FEB .....        | 15 |
| FEL: FEロック .....   | 16 |
|  ハイスピードシンクロ ..... | 17 |
| バウンス .....   | 18 |
| ZOOM: 照射角の設定とワイドパネル .....  | 20 |
| M: マニュアル発光 .....   | 22 |
| MULTI: マルチ発光撮影 .....   | 24 |
|  後幕シンクロ撮影 ..... | 26 |
| C.Fn: カスタム機能の設定 .....  | 27 |
| ストロボ外部調光 .....   | 30 |
| カメラのメニュー画面からのストロボ制御 .....  | 32 |

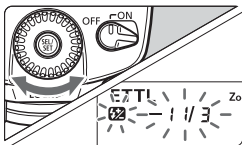
## 調光補正

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。設定できる補正量は1/3段ステップ±3段の範囲です。(カメラの露出設定が1/2段ステップの場合は1/2段ステップ)



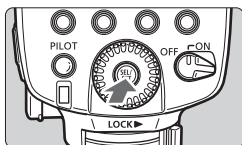
### 1 <img alt="Flash icon" data-bbox="428 194 484 214"/> を選択する

- <img alt="Flash icon" data-bbox="428 224 484 244"/> ボタンを押して <img alt="Flash icon" data-bbox="428 249 484 269"/> を表示します。
- <img alt="Flash icon" data-bbox="428 274 484 294"/> と補正量が点滅します。




### 2 補正量を設定する

- <img alt="Flash icon" data-bbox="428 369 484 389"/> を回して補正量を設定します。
- 調光補正を解除するときは補正量を「+0」に戻します。



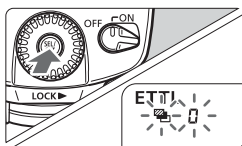
### 3 <img alt="Flash icon" data-bbox="428 483 484 503"/> ボタンを押す

- 調光補正が設定されます。

 ストロボとカメラの両方で調光補正を行った場合は、ストロボの調光補正が優先されます。

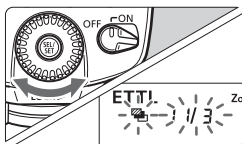
**C.Fn** 調光補正を <img alt="Flash icon" data-bbox="264 921 320 941"/> のみで設定できるように変更できます。(C.Fn-13→p.27)

1/3段ステップ±3段（カメラの露出設定が1/2段ステップの場合は1/2段ステップ）の範囲で、ストロボの光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。これをFEB（Flash Exposure Bracketing）撮影といいます。



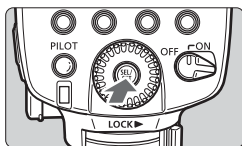
## 1 <img alt="FEB icon" data-bbox="285 225 315 245"/> を選択する

- <img alt="SEL button icon" data-bbox="485 250 515 270"/> ボタンを押して <img alt="FEB icon" data-bbox="285 225 315 245"/> を表示します。
- <img alt="FEB icon" data-bbox="285 225 315 245"/> と補正量が点滅します。



## 2 補正量を設定する

- <img alt="SEL button icon" data-bbox="485 395 515 415"/> を回して補正量を設定します。



## 3 <img alt="SEL button icon" data-bbox="485 510 515 530"/> ボタンを押す

- FEBが設定されます。



- 3枚撮影後、FEBは自動解除されます。
- FEB撮影では、カメラのドライブモードを1枚撮影に設定し、必ず充電を確認してから撮影してください。
- 調光補正やFEロックと組み合わせて撮影することができます。

**C.Fn** 3枚撮影後にFEB自動解除をしないように変更できます。（C.Fn-03→p.27）

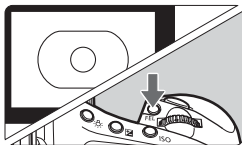
**C.Fn** FEBの撮影順を変更できます。（C.Fn-04→p.27）

# FEL: FEロック

FE (Flash Exposure) ロックは、被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。

表示パネルに〈ETTL〉が表示されている状態で、カメラの〈FEL〉ボタンを押して行います。〈FEL〉ボタンのないカメラは〈\*〉ボタンを押します。

## 1 被写体にピントを合わせる



## 2 〈FEL〉ボタンを押す (Ⓜ16)

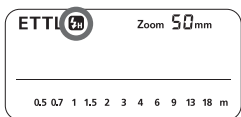
- 被写体をファインダー中央において〈FEL〉ボタンを押します。
- ➔ ストロボがプリ発光し、被写体に必要な露光量を記憶します。
- ➔ ファインダー内に「FEL」が0.5秒間表示されます。
- 〈FEL〉ボタンを押すたびにプリ発光し、そのとき必要な露光量をロックします。

- 被写体までの距離が遠すぎて露出不足になるときは、ファインダー内の〈⚡〉が点滅します。被写体に近づいてもう一度FEロックを行います。
- 表示パネルに〈ETTL〉が表示されていない状態では、FEロックできません。
- ファインダー視野に対して被写体が小さいと、FEロックの効果が得られない場合があります。






## ハイスピードシンクロ




ハイスピードシンクロ（FP発光）を使用すると、すべてのシャッター速度でストロボ撮影を行うことができます。特に日中シンクロによるポートレート撮影を、絞り優先で行いたいときに有効です。



### 〈〉を選択する

- 〈/▶〉 ボタンを押して 〈〉 を表示します。
- ファインダー内で 〈〉 の点灯を確認します。



- シャッター速度をストロボ同調最高シャッター速度以下に設定した場合は、ファインダー内に 〈〉 は表示されません。
- ハイスピードシンクロ撮影では、シャッター速度が高速になるほどストロボ光の到達距離が短くなります。連動距離は、そのつど表示パネルで確認してください。
- 通常の発光に戻すときは、もう一度 〈/▶〉 ボタンを押して 〈〉 を消します。
- マルチ発光では設定できません。

# バウンス

ストロボ発光部を壁や天井に向けて発光させ、その反射光を利用して撮影すると、被写体背後の影が緩和されて、より自然な感じになります。これをバウンス撮影といいます。

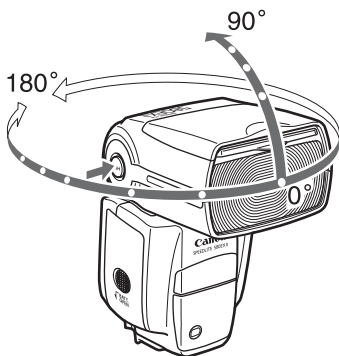
## 発光部の向きを決める

〈PUSH〉ボタンを押しながら発光部を回転させます。

照射角を自動設定にしていると、照射角50mmに固定されます。

また、表示パネルには〈--〉mmが表示されます。

- 照射角は手動でも設定できます。

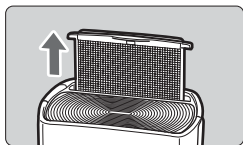


- バウンスさせる壁や天井までの距離が離れていると、反射光が届かずに光量不足になることがあります。
- バウンスさせる壁や天井は無地の白に近い色をした、反射率の高いものを選んでください。反射面に色がついていると、撮影結果がその色の影響を受けます。
- 撮影後、調光確認ランプが点灯しないときは、より小さな絞り数値を設定して（絞りを開いて）再度撮影してください。

## キャッチライト撮影

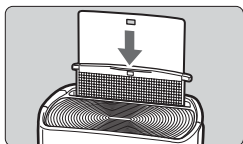
キャッチライトパネルを使うと、人物の目に光を写しこみ、表情をより生き生きさせることができます。

### 1 発光部を上方向90°に向ける



### 2 ワイドパネルを引き出す

→ キャッチライトパネルも同時に引き出されます。



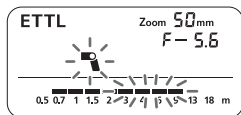
### 3 ワイドパネルを押し戻す

- ワイドパネルだけ押し戻します。
- バウンス撮影と同様の手順で撮影します。

- 発光部の位置は正面・上方向90°にしてください。発光部を左右に回転させるとキャッチライト効果を得ることができません。
- キャッチライトを効果的に入れるために、被写体から1.5m以内の距離で撮影してください。

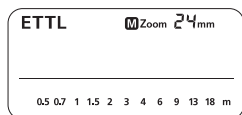
## 近距離ストロボ撮影

〈PUSH〉ボタンを押しながら発光部を下方向7°に回転させると、約0.5～2mの範囲で画面下部にまで光をまわすことができます。




# ZOOM: 照射角の設定とワイドパネル

撮影レンズの焦点距離に応じて、24～105mmの範囲で照射角を設定できます。設定方法には、自動設定と手動設定があります。また、内蔵のワイドパネルを併用すると、14mmの超広角レンズにも対応することができます。

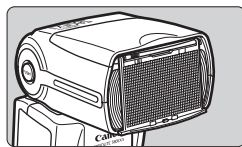


## 〈ZOOM/↔〉 ボタンを押す

- 〈〉 を回すと照射角が変わります。
- 〈M〉 が表示されていない状態が自動設定です。

- 照射角を手動設定するときは、できあがった写真の周辺が暗くならないよう、撮影画角よりも広い照射角を設定します。
- カメラとストロボのシンクロ端子を市販のシンクロコードで接続して撮影するときは、照射角を手動で設定してください。

## ワイドパネルの使用



ワイドパネルを引き出して図のように発光部前面を被うと、14mmの画角に対応できます。

- 同時にキャッチライトパネルが引きだされます。キャッチライトパネルのみ押し戻してください。
- 〈ZOOM/↔〉 ボタンは機能しません。

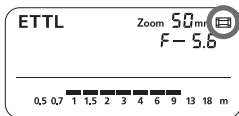
EF15mm F2.8フィッシュアイレンズの画角には、対応していません。

- ワイドパネルをセットした状態でバウンス撮影を行うとバウンス光と直射光がともに照射されて不自然な写真になるため、表示パネルの表示が点滅して警告します。
- ワイドパネルを強い力で引き出さないでください。ワイドパネルがストロボ本体から外れるおそれがあります。

## 画面サイズ自動対応ズーム

EOS デジタルカメラには、3種類の画面サイズがあり、装着したレンズの有効撮影画角は、それぞれの機種で異なります。本機では、各EOS デジタルカメラの画面サイズを自動認識して、24～105mmの範囲でレンズ有効撮影画角に最適な照射角を自動設定します。

対応カメラ装着時には表示パネル上に〈〉が表示されます。

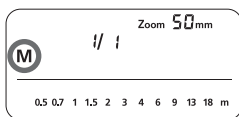


**C.Fn** 画面自動対応ズームを解除することができます。(C.Fn-09→p.27)

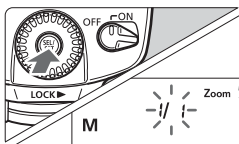
# M: マニュアル発光

フル発光 (1/1) から1/128発光まで、発光量を1/3段ステップで設定することができます。

市販のフラッシュメーターを使用して発光量を決めると、正確な露出を得ることができます。

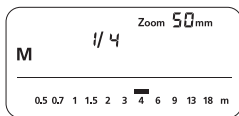


1 <MODE> ボタンを押して、<M> を表示させる



2 発光量を設定する

- <MODE> ボタンを押します。  
→ 発光量が点滅します。
- <MODE> を回して発光量を設定し、<MODE> ボタンを押します。
- シャッターボタンを半押しすると、連動距離の目安が表示されます。



## 発光量の数値表示について

発光量を振りながら撮影する際、 $1/2 - 0.3 \rightarrow 1/2 \rightarrow 1/2 + 0.3$  というように何段振ったかが分かりやすいよう、例のように発光量を減らす方向と、増やす方向で、異なる発光量の数値を示すようにしています。

例えば、発光量を減らして1/2、 $1/2 - 0.3$ 、 $1/2 - 0.7$ のいずれかに設定したあと、発光量を1/2よりも多くすると、 $1/2 + 0.3$ 、 $1/2 + 0.7$ 、1/1の順に表示します。

(例) 発光量を減らしたときの数値→

|     |           |           |     |           |           |     |     |
|-----|-----------|-----------|-----|-----------|-----------|-----|-----|
| 1/1 | 1/1 - 0.3 | 1/1 - 0.7 | 1/2 | 1/2 - 0.3 | 1/2 - 0.7 | 1/4 | ... |
|     | 1/2 + 0.7 | 1/2 + 0.3 |     | 1/4 + 0.7 | 1/4 + 0.3 |     | ... |

←発光量を増やしたときの数値

## ストロボメータードマニュアル撮影について

EOS-1Dシリーズカメラ装着時、手動で調光レベルを決める近接撮影向けの機能です。

### 1 カメラとストロボの機能を設定する

- カメラの撮影モードを〈M〉、または〈Av〉に設定します。
- ストロボはマニュアル発光に設定します。

### 2 ピントを合わせる

- 手動で被写体にピントを合わせます。

### 3 18%標準反射板をセットする

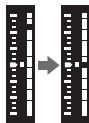
- 標準反射板を被写体の位置におきます。
- ファインダー内の中央部スポット範囲の領域全体に、標準反射板がくるようにします。

### 4 〈FEL〉 ボタンを押す (☉16)

- ➔ ストロボがプリ発光し、適正調光に必要な発光量が記憶されます。
- ➔ ファインダー内右側の露出レベル表示に、適正調光に対する調光レベルが表示されます。


### 5 調光レベルを設定する

- 調光レベルが標準露出指標の位置にくるように、ストロボのマニュアル発光量と絞り数値を設定します。



### 6 撮影する

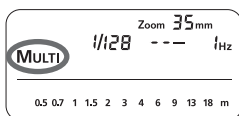
- 標準反射板を、取り除いて撮影します。

 マニュアル発光ができるEXシリーズストロボと、EOS-1Dシリーズカメラ組み合わせ限定の機能です。

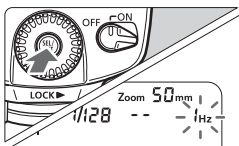
# MULTI: マルチ発光撮影

マルチ発光を利用すると、一枚の写真の中に連続した動きを分解写真のようにして多重撮影することができます。

マルチ発光では、発光周波数（1秒間の発光回数=Hz）、発光回数、発光量の設定を行います。

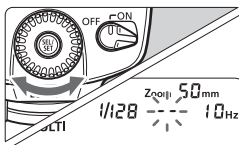


- 1 <MODE> ボタンを押して、<MULTI> を表示させる



- 2 項目を選択する

- <OK> ボタンを押すと、選択された項目が点滅します。



- 3 数値を設定する

- <OK> を回して数値を設定し、<OK> ボタンを押します。
- ➔ 次の項目が点滅を始めます。
- 発光量設定後に <OK> ボタンを押すと全点灯になります。

## シャッター速度の求め方

マルチ発光では、連続発光が終わるまでシャッターが開いているよう、以下の計算式から求めたシャッター速度をカメラに設定します。

発光回数 ÷ 発光周波数 = シャッター速度

例えば、発光回数10（回）、発光周波数5（Hz）で撮影する場合は、シャッター速度を2秒以上に設定します。





発光部の発熱と劣化を防ぐため、マルチ発光での繰り返し撮影は10回までにしてください。10回撮影したら、15分以上休止してください。なお、10回を越える繰り返し発光時は、発光部の保護のため、発光が停止することがあります。その場合は15分以上休止してください。



- マルチ発光撮影は、反射率の高い被写体と暗い背景の組み合わせがもっとも効果的です。
- 三脚およびリモートスイッチの併用と、外部電源の使用をおすすめします。
- 1/1発光と1/2発光でのマルチ発光はできません。
- 「buLb」でもマルチ発光ができます。
- ストロボの発光回数表示がーのときは、シャッターが閉じるか、電池の容量がなくなるまで連続発光しますが、下表に示す発光回数制限を受けます。

## 最大連続発光回数表

| 発光量 \ Hz | 1   | 2   | 3   | 4   | 5   | 6-7 | 8-9 |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1/4      | 7   | 6   | 5   | 4   | 4   | 3   | 3   |
| 1/8      | 14  | 14  | 12  | 10  | 8   | 6   | 5   |
| 1/16     | 30  | 30  | 30  | 20  | 20  | 20  | 10  |
| 1/32     | 60  | 60  | 60  | 50  | 50  | 40  | 30  |
| 1/64     | 90  | 90  | 90  | 80  | 80  | 70  | 60  |
| 1/128    | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 90  | 80  |

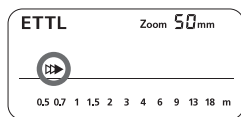
| 発光量 \ Hz | 10 | 11 | 12-14 | 15-19 | 20-50 | 60-199 |
|----------|----|----|-------|-------|-------|--------|
| 1/4      | 2  | 2  | 2     | 2     | 2     | 2      |
| 1/8      | 4  | 4  | 4     | 4     | 4     | 4      |
| 1/16     | 8  | 8  | 8     | 8     | 8     | 8      |
| 1/32     | 20 | 20 | 20    | 18    | 16    | 12     |
| 1/64     | 50 | 40 | 40    | 35    | 30    | 20     |
| 1/128    | 70 | 70 | 60    | 50    | 40    | 40     |

- 発光回数がー（バー表示）のとき最大発光回数は、発光周波数にかかわらず次の表のようになります。

| 発光量  | 1/4 | 1/8 | 1/16 | 1/32 | 1/64 | 1/128 |
|------|-----|-----|------|------|------|-------|
| 発光回数 | 2   | 4   | 8    | 12   | 20   | 40    |

## ▶▶ 後幕シンクロ撮影

低速シャッター速度設定時に、光源の軌跡を写し込むときに有効です。シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。



〈Fn/▶▶〉ボタンを押して、  
〈▶▶〉を表示させる

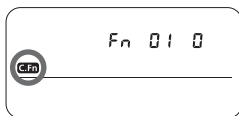


- カメラの撮影モードを「**buLb**」にすると後幕シンクロ撮影しやすくなります。
- 通常の発光に戻すときは、もう一度〈Fn/▶▶〉ボタンを押して〈▶▶〉を消します。
- E-TTL II/E-TTL撮影では、スローシャッター時にもストロボが2回発光します。1回目の発光はプリ発光ですので、故障ではありません。
- マルチ発光では設定できません。
- ワイヤレスストロボ撮影では設定できません。

## C.Fn: カスタム機能の設定

撮影スタイルに応じて、ストロボの機能を細かく変更することができます。これをカスタム機能といいます。

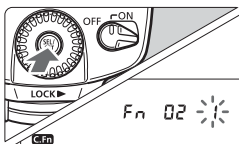
| カスタム機能番号 | 項目              | 設定番号 | 設定・変更内容        | 参照ページ |
|----------|-----------------|------|----------------|-------|
| C.Fn-00  | 距離表示            | 0    | メートル (m) 表示    | —     |
|          |                 | 1    | フィート (feet) 表示 | —     |
| C.Fn-01  | オートパワーオフ        | 0    | 入              | p.10  |
|          |                 | 1    | 切              |       |
| C.Fn-02  | モデリング発光         | 0    | する：絞り込みボタン     | p.44  |
|          |                 | 1    | する：テスト発光ボタン    |       |
|          |                 | 2    | 両方のボタンで発光する    |       |
|          |                 | 3    | しない            |       |
| C.Fn-03  | FEB自動解除         | 0    | する             | p.15  |
|          |                 | 1    | しない            |       |
| C.Fn-04  | FEBの撮影順序        | 0    | 0→→→+          | p.15  |
|          |                 | 1    | →→0→+          |       |
| C.Fn-05  | 調光方式            | 0    | E-TTL II/E-TTL | p.12  |
|          |                 | 1    | TTL            | p.55  |
|          |                 | 2    | 外部調光：オート       | p.30  |
|          |                 | 3    | 外部調光：マニュアル     | p.30  |
| C.Fn-06  | 連続発光時のクイック発光    | 0    | しない            | p.10  |
|          |                 | 1    | する             |       |
| C.Fn-07  | 自動調光時のテスト発光     | 0    | 1/32発光         | —     |
|          |                 | 1    | フル発光           | —     |
| C.Fn-08  | AF補助光の投光        | 0    | する             | p.49  |
|          |                 | 1    | しない            |       |
| C.Fn-09  | 画面サイズ対応自動ズーム    | 0    | する             | p.21  |
|          |                 | 1    | しない            |       |
| C.Fn-10  | スリープのオートパワーオフ時間 | 0    | 60分            | p.39  |
|          |                 | 1    | 10分            |       |
| C.Fn-11  | スリープのオートパワーオフ解除 | 0    | 8時間以内          | p.39  |
|          |                 | 1    | 1時間以内          |       |
| C.Fn-12  | 外部電源使用時の充電      | 0    | ストロボ本体と外部電源    | p.48  |
|          |                 | 1    | 外部電源           |       |
| C.Fn-13  | 調光補正の設定方法       | 0    | ボタン+ダイヤル       | p.14  |
|          |                 | 1    | ダイヤルで直接設定      |       |



- 1 <C.Fn>が表示されるまで、  
<Fn/C.Fn> ボタンを押す

2 カスタム機能番号を選択する

- <Fn/C.Fn> を回してカスタム機能番号を選択します。




3 設定を変更する

- <Fn/C.Fn> ボタンを押します。
- カスタム機能番号が点滅します。
- <Fn/C.Fn> を回して希望する設定番号を選び、<Fn/C.Fn> ボタンを押します。
- 設定終了後、<MODE> ボタンを押すと撮影準備状態に戻ります。

C.Fn-02-3：被写界深度確認だけをしたいときに有効です。(p.44)

C.Fn-12：外部電源併用時のストロボ充電は、内部電源と外部電源を使用した並列充電を行います。この場合内部電源が先に消費して撮影できなくなることがあります。1を設定すると、外部電源のみでストロボ充電を行うため、内部電源の消費を抑えることができます。なお、1に設定しても本体側の電池はストロボ制御に必要なので、必ず入れてください。

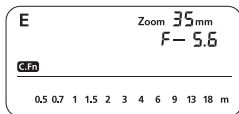
- C.Fn-05-1は、EOSシリーズのフィルムカメラを前提にしたカスタム機能です。EOSデジタルカメラおよびEOS Kiss7使用时には設定しないでください。設定すると、機種によって、発光しなかったり常時フル発光になるなど、正しい制御が行なわれません。
- AタイプカメラでC.Fn-05-1を設定すると、自動調光によるワイヤレスストロボ撮影はできません。
- ストロボ、カメラのいずれかが「AF補助光の投光禁止」に設定されていた場合、AF補助光は投光されません。

 Bタイプカメラでは、C.Fn-05-0を選択しても、E-TTL II/E-TTL自動調光撮影にはなりません。

# ストロボ外部調光

ストロボ発光による被写体からの反射光を、外部調光受光部のセンサーでリアルタイム測光し、標準露出になれば発光を自動停止します。EOS-1D Mark III が対象のオート外部調光と、すべてのEOSカメラが対象のマニュアル外部調光があります。

## E: オート外部調光

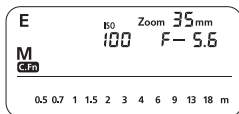


### オート外部調光に設定する

- ストロボのカスタム機能を、C.Fn-05-2に設定します。(p.27)

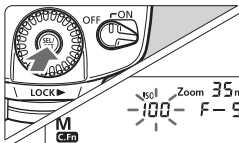
- オート外部調光では、カメラのISO感度、絞り値がリアルタイムで、ストロボに自動設定されます。
- オート外部調光では、調光補正 (p.14) とFEB (p.15) が可能です。

## EM: マニュアル外部調光






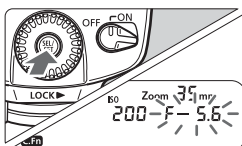
### 1 マニュアル外部調光に設定する

- ストロボのカスタム機能を、C.Fn-05-3に設定する。(p.27)






### 2 カメラのISO感度をストロボに設定する

-  ボタンを押し、ISO感度表示を点滅させます。
-  を回してISO感度を選択し、 ボタンを押します。



### 3 カメラの絞り数値をストロボに設定する

-  ボタンを押し、絞り数値を点滅させます。
-  を回して絞り数値を選択し、 ボタンを押します。



- 設定完了後、ストロボの表示パネルに連動距離範囲が表示されます。



- マニュアル外部調光では、カメラとストロボのシンクロ端子を、市販のシンクロコードで接続することで、ストロボをカメラから離して撮影することもできます。
- ストロボのシンクロ端子に、別のストロボをシンクロコードで接続しても発光しません。

# カメラのメニュー画面からのストロボ制御

外部ストロボ制御機能に対応したEOSカメラに装着したときは、カメラ本体から設定が可能です。内容は、すべてカメラのメニュー画面で確認することができます。

## ●ストロボ機能設定

調光方式や、発光モードによって設定できる内容が変わります。

- ・発光モード
- ・シンクロ設定（先幕/後幕）
- ・FEB
- ・調光補正
- ・調光モード
- ・ストロボの発光
- ・ストロボ設定初期化

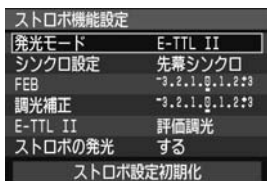
## ●ストロボカスタム機能設定

- ・ C.Fn-00～13 全14項目

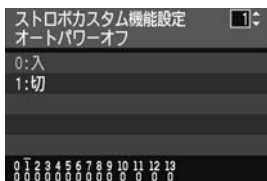
## ●ストロボカスタム機能一括解除

C.Fn-00は解除されません。

ストロボ機能設定画面\*



ストロボカスタム機能設定画面\*



\* EOS-1D Mark III の例

ストロボ側で調光補正が設定されている場合は、カメラ側で調光補正を設定することはできません。ストロボ側で、一旦、調光補正量をゼロにしてください。

調光補正以外のストロボ機能設定、ストロボカスタム機能設定は、ストロボとカメラのどちらかで設定が行われた場合、最後に行われた設定が有効となります。



# 3

## ワイヤレスストロボ撮影

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| ワイヤレスストロボ撮影について.....        | 34 |
| ワイヤレス設定.....                | 36 |
| 全自動ワイヤレスストロボ撮影 .....        | 37 |
| 光量比を設定したE-TTL II 多灯撮影 ..... | 41 |
| スレーブごとに発光量を設定した多灯撮影 .....   | 45 |
| スレーブで設定するマニュアル/マルチ発光 .....  | 46 |

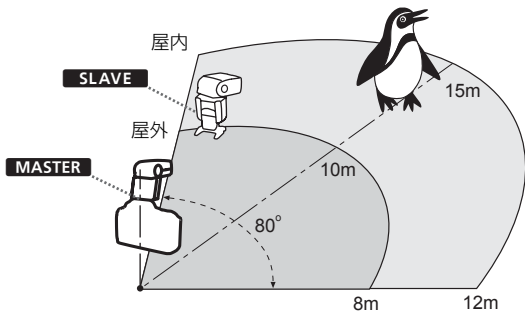
# ワイヤレスストロボ撮影について

ワイヤレス多灯撮影機能を備えたキャノン製スピードライトを併用すると、通常のE-TTL II 自動調光ストロボ撮影と同じ感覚で、高度なワイヤレス多灯ライティング撮影を簡単に行うことができます。

本システムでは、カメラに取り付けた580EX II (マスター) の設定内容が、ワイヤレス制御されるストロボ (スレーブ) 側にも自動設定される仕組みになっています。そのため、撮影中にスレーブ側の操作は必要ありません。

基本的な撮影準備操作は以下のイラストのとおりです。あとは、マスターを〈ETTL〉に設定するだけで、ワイヤレスE-TTL II 自動調光撮影を行うことができます (p.37)。なお、EOS-1D Mark IIとEOS 7sよりも前に発売されたAタイプカメラの自動調光制御は、E-TTL方式で行われます。

## 配置と作動範囲

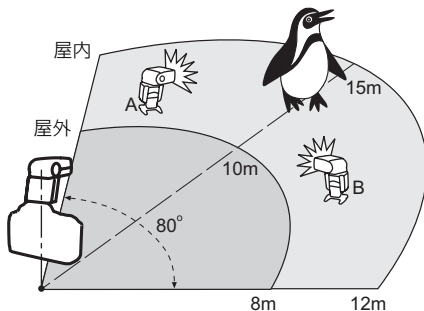


- マスターで設定したストロボ調光補正/ハイスピードシンクロ (FP発光) / FEロック/FEB/マニュアル発光/マルチ発光の内容は、ワイヤレスでスレーブにも自動設定されます。
- スレーブ設定にした複数のストロボを配置したときも、同じようにワイヤレス制御されます。
- スレーブ設定した580EX II を、ワイヤレストランスミッターST-E2 (別売) でワイヤレス制御することもできます。
- 以降の説明では、カメラに取り付けた580EX II を「マスター」、ワイヤレス制御される580EX II を「スレーブ」と呼びます。

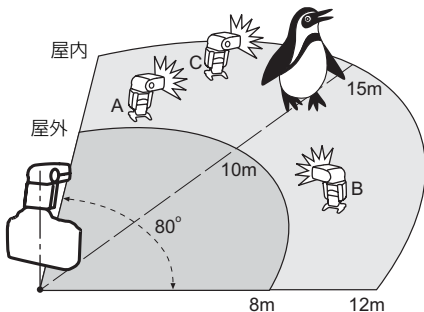
## 高度なワイヤレス多灯撮影

ストロボを2グループ、または3グループに分けて、光量比（倍率比）を変えながら、E-TTL II 自動調光撮影を行うことができます（p.41～45）。

### ストロボを2グループに分けたワイヤレス多灯撮影（p.41）



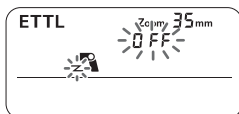
### ストロボを3グループに分けたワイヤレス多灯撮影（p.43）



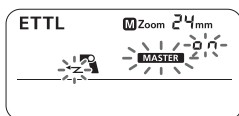
# ワイヤレス設定

通常のストロボ撮影と、ワイヤレスストロボ撮影を以下の手順で切り換えます。なお、通常の撮影では、必ずワイヤレス設定をOFFにしてください。

## マスター設定

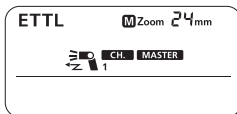


- 1 <ZOOM> ボタンを 2 秒以上押し、左図のような点滅にする

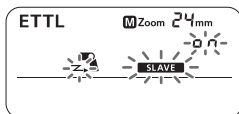


- 2 マスターに設定する

- <ZOOM> を回して <MASTER> を点滅させ、<ZOOM> ボタンを押します。
- ➔ <MASTER> と <CH.> が点灯し、マスターに設定されます。

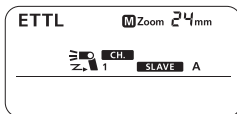


## スレーブ設定



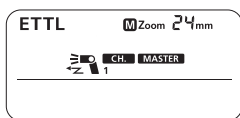
- スレーブに設定する

- 上述の『マスター設定』操作を行います。手順 2 のときに、<ZOOM> を回して <SLAVE> を点滅させ、<ZOOM> ボタンを押します。
- ➔ <SLAVE> と <CH.> が点灯し、スレーブに設定されます。

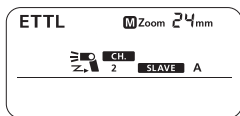


# 全自動ワイヤレスストロボ撮影

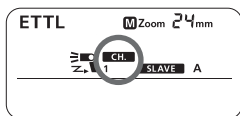
この撮影では、すべてのストロボが同一光量で発光し、総光量の和が標準露出になるようE-TTL II 自動調光制御が行われます。



- 1 カメラに取り付けた580EX II をマスターに設定する



- 2 ワイヤレス制御する580EX II をスレーブに設定する



- 3 通信チャンネルを確認する

- マスターとスレーブで異なるチャンネルが設定されているときは、同じチャンネルに設定します (p.40)。

- 4 カメラとストロボを配置する

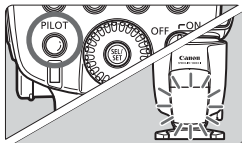
- 次ページに示す範囲内に配置します。

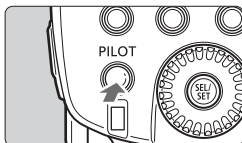
- 5 マスターの発光モードを〈ETTL〉に設定する

- 撮影時に、スレーブも〈ETTL〉に自動設定されます。

- 6 充電を確認する

- スレーブの充電が完了すると、AF 補助光が1秒間隔で点滅します。



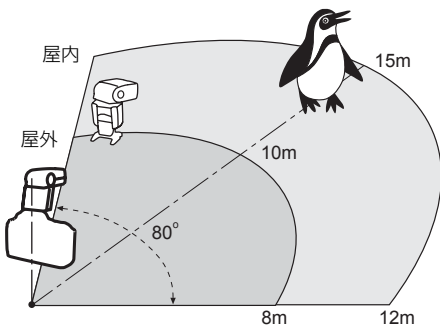


## 7 作動確認をする

- マスターのテスト発光ボタンを押します。
- ➔ スレーブが発光します。発光しないときは、配置角と距離をマスター寄りに変更します。

## 8 カメラの設定をして撮影する

- 通常のストロボ撮影と同じように、カメラを設定して撮影します。



- スレーブの配置には付属のミニスタンド（三脚ネジ穴付き）を利用します。
- 左右バウンス機能を利用し、スレーブの受信部をマスター側に向けます。
- 室内では壁面反射があるため、多少ラフな配置でも作動します。
- 配置後、撮影する前に必ずワイヤレス作動確認を行ってください。
- マスターとスレーブの間に障害物をおかないでください。送受信の妨げになります。



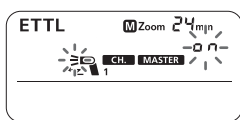
- ストロボのズーム位置は24mmに自動設定されます。ズーム位置の変更は可能ですが、本システムでは、プリ発光を利用した光通信でスレーブを制御するためマスターのズーム位置を変更したときは、必ず作動確認を行ってください。
- スレーブがオートパワーオフ状態になったときは、マスターをテスト発光するとスレーブの電源が入ります。
- カメラの $\odot$ 4、 $\odot$ 6タイマーが働いているときは、テスト発光できません。

**C.Fn** スレーブのオートパワーオフの時間を変更することができます。  
(C.Fn-10→p.27)

**C.Fn** マスターからのスレーブのオートパワーオフ解除の時間を変更することができます。  
(C.Fn-11→p.27)

## マスター発光のON/OFF選択

マスター発光を止めて、スレーブだけを発光させることができます。

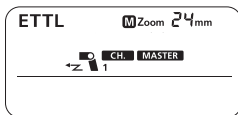


**1** 〈ZOOM/↔〉 ボタンを押して、左図のような点滅にする



**2** マスター発光を止める

- 〈 $\odot$ 〉 を回して 〈OFF〉 を選び、〈 $\odot$ 〉 ボタンを押します。
- ➔ 表示が 〈 $\rightarrow$ 〉 になります。





マスター発光を止めても、ワイヤレス信号を送信するため、マスターストロボが発光します。

## 全自動ワイヤレスストロボの応用撮影

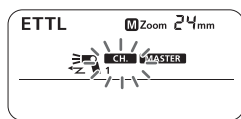
本システムでは、マスターで設定した調光補正などの内容が、そのままスレーブに自動設定される仕組みになっています。スレーブ側の操作は必要ありません。以下のワイヤレスストロボ撮影を、通常のストロボ撮影と同じ操作で行うことができます。

- ・ストロボ調光補正
- ・ハイスピードシンクロ（FP発光）
- ・FEロック
- ・FEB
- ・マニュアル発光
- ・マルチ発光撮影

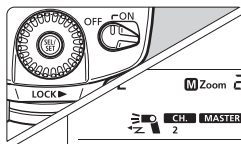
 FEロックでは、ストロボ1台でも露出不足になると、ファインダー内の〈〉が点滅します。絞りを開くか、スレーブを被写体に近づけてください。



## 通信チャンネルの設定

他の人が使用しているキヤノン製ワイヤレス多灯システムと混信しないよう、チャンネルを切り換えることができます。チャンネルは、マスター、スレーブとも同じ番号を設定します。



**1** 〈ZOOM/↔〉ボタンを押して、〈CH.〉を点滅させる



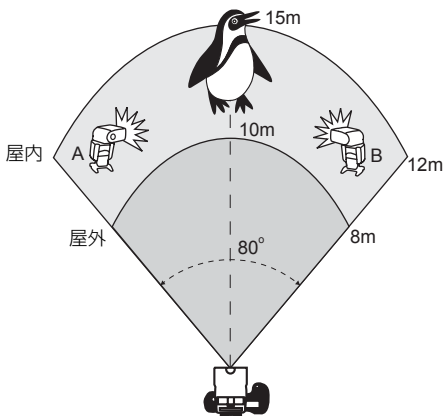
**2** チャンネルを設定する  
● 〈〉を回して番号を選び、〈〉ボタンを押します。



# 光量比を設定した E-TTL II 多灯撮影

マスターとスレーブや、スレーブ2灯の組み合わせで光量比を変えながら、E-TTL II 自動調光撮影を行うことができます。

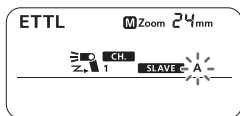
ここでは、スレーブ2灯を使い、マスター発光を止めたときの操作方法を紹介します。






## スレーブを設定する

2つのスレーブをグループ分けするために、スレーブIDを設定します。

- 1 ワイヤレスモードを **< SLAVE >** に設定する (p.36)
- 2 **< ZOOM / ⇄ >** ボタンを押して、**< A >** を点滅させる



### 3 スレーブIDを設定する

-  ボタンを押します。
- スレーブID **〈A〉** が設定されます。
- もうひとつのスレーブを、手順1、2の操作後、 を回して **〈B〉** を選び、 ボタンを押します。
- スレーブID **〈B〉** が設定されます。

## マスターを設定して撮影する



1 ワイヤレスモードを **〈MASTER〉** に設定する (p.36)

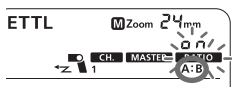
2 マスター発光を止める (p.39)

3 **〈ZOOM/↔〉** ボタンを押して、**〈RATIO〉** を点滅させる




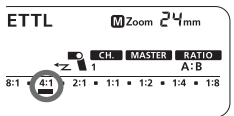
4 光量比設定を選ぶ

-  を回して **〈A:B〉** を選び、 ボタンを押します。




5 光量比を設定する

-  を回して光量比を設定します。



6 カメラの設定をして撮影する

- 通常のストロボ撮影と同じように、カメラを設定して撮影します。

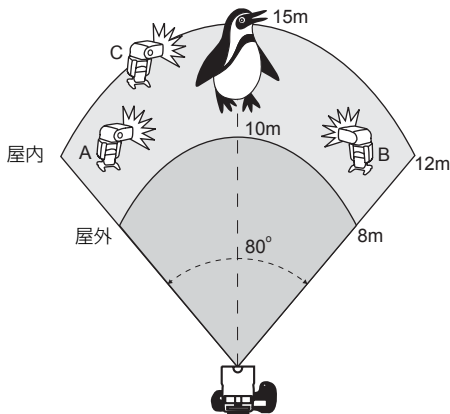
 EOS 55、NEW EOS Kiss、EOS IX E、EOS IX50、EOS Kiss III/EOS Kiss III L、EOS 3000Nは、光量比を設定したストロボ多灯撮影はできません。



- 光量比の8：1～1：1～1：8は、段数換算で3：1～1：1～1：3（1/2段ステップ）に相当します。
- 光量比表示の ■ の比率は、下記（ ）内のとおりです。

8:1 ■ 4:1 ■ 2:1 ■ 1:1 ■ 1:2 ■ 1:4 ■ 1:8  
◀──▶  
(5.6:1) (2.8:1) (1.4:1) (1:1) (1:1.4) (1:2.8) (1:5.6)

## スレーブ3灯を3グループに分けた撮影



A：Bのグループ分けに、Cグループを追加することができます。使い方としては、A：Bのグループで主被写体を標準露出し、Cグループで背景の影を消すといったライティングを想定しています。

### 1 スレーブを設定する

- 41ページの『スレーブを設定する』で、3つのスレーブそれぞれのIDを〈A〉、〈B〉、〈C〉に設定します。
- 〈C〉に設定したスレーブは、必要に応じて調光補正を行ってください。

## 2 マスターを設定して撮影する

- 42 ページの『マスターを設定して撮影する』の操作を行います。手順4のときに **〈A:B C〉** を選んでください。

- ❗ **〈RATIO A:B〉** の設定にすると **〈C〉** グループに設定したスレーブは発光しません。
- **〈C〉** グループのスレーブを主被写体に向けて撮影すると、露出オーバーになることがあります。

## モデリング発光

絞り込みボタンのあるカメラでは、絞り込みボタンを押すとストロボが1秒間連続発光します。これをモデリング発光といいます。

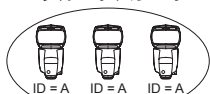
被写体の影の出かたや、ライティングのバランスを確認するときに使用します。モデリング発光はワイヤレスストロボ撮影だけではなく、通常のストロボ撮影時にも使用可能です。

- ❗ モデリング発光は、連続10回までにしてください。発光部の発熱と劣化を防ぐため、10回発光したら、10分以上モデリング発光を行わないでください。

- 📄 EOS Kiss III/EOS Kiss III L、およびBタイプカメラ (p.2) は、モデリング発光ができません。

## グループ制御について

Aグループスレーブ

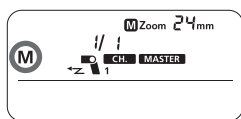


例えば、スレーブIDを **〈A〉** にした3つのスレーブがある場合は、3つを1灯のAグループスレーブとみなして制御します。

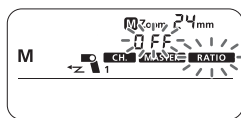
# スレーブごとに発光量を設定した多灯撮影

マニュアル発光の多灯撮影で、各スレーブに異なる発光量を設定することができます。

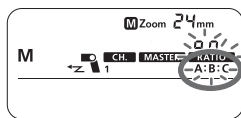
設定は、すべてマスター側で行います。



- 1 〈MODE〉 ボタンを押して、〈M〉を表示させる

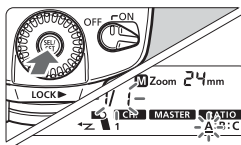


- 2 〈ZOOM/↔〉 ボタンを押して、〈RATIO〉を点滅させる



- 3 光量比設定を選ぶ

- 〈RATIO〉を回して〈A:B〉または〈A:B:C〉を選び、〈RATIO〉ボタンを押します。



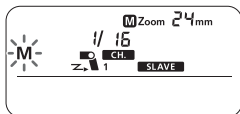
- 4 発光量を設定する

- 〈RATIO〉ボタンを押します。  
→ スレーブID 〈A〉が点滅します。
- 〈RATIO〉を回して〈A〉の発光量を設定し、〈RATIO〉ボタンを押します。
- スレーブID 〈B〉が点滅しますので、〈RATIO〉を回して〈B〉の発光量を設定し、〈RATIO〉ボタンを押します。
- スレーブID 〈C〉が点滅しますので、〈RATIO〉を回して〈C〉の発光量を設定し、〈RATIO〉ボタンを押します。
- すべてのスレーブID が点灯します。

## スレーブで設定するマニュアル／マルチ発光 ■

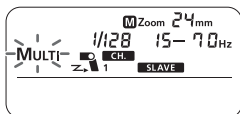
スレーブ側でマニュアル発光、マルチ発光の手動設定（単独スレーブ）を行うことができます。スタジオ用大型ストロボ同様、スレーブストロボ側で任意の光量を設定し、ワイヤレス・マニュアル発光撮影を行うときなどに利用します。

### マニュアル発光



- 〈MODE〉 ボタンを2秒以上押します。
- 〈M〉 が点滅します。
- マニュアル発光量を設定します (p.22)。

### マルチ発光



- 〈MODE〉 ボタンを2秒以上押します。
- 〈M〉 が点滅します。
- もう一度 〈MODE〉 ボタンを押すと 〈MULTI〉 が点滅します。
- マルチ発光の設定をします (p.24)。

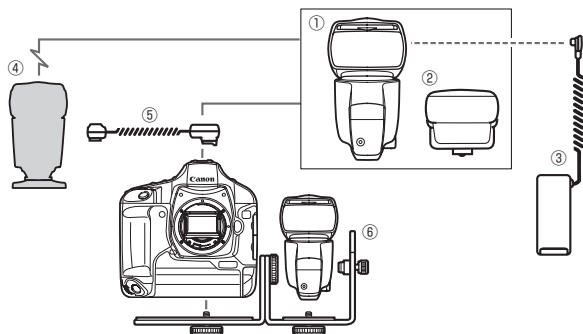
# 4

## 資料

---

|                      |    |
|----------------------|----|
| 580EX II のシステム ..... | 48 |
| 故障かな？とお考えになる前に ..... | 50 |
| 主な仕様 .....           | 52 |
| Bタイプカメラとの組み合わせ ..... | 55 |

# 580EX II のシステム



① スピードライト580EX II (クリップオン/マスター)

② スピードライトトランスミッター ST-E2

スレーブ設定された580EX II/430EXをワイヤレス制御するための専用送信機です。

③ コンパクトバッテリーパックCP-E4

携帯性に優れた小型軽量の外部電源です。580EX II 同等の防塵・防滴機能を備えています。単3形アルカリ乾電池8本、または単3形ニッケル水素電池を8本使用します。単3形リチウム電池も使用できます。

④ スレーブ機能付きEXシリーズスピードライト

⑤ オフカメラシューコードOC-E3

580EX II をカメラから約60cmまで離して使用することができます。580EX II 同等の防塵・防滴機能を備えています。EOSカメラのすべてのオート機能を利用することができます。

⑥ スピードライトブラケットSB-E2

**外部電源は上記の③をお使いください。キャノン製以外の外部電源を使用すると、故障の原因となることがあります。**



## 色温度情報通信について

ストロボ発光時の色温度情報を、EOS デジタルカメラに伝えることで、ストロボ撮影時のホワイトバランスを最適にする機能です。カメラのホワイトバランスが、〈AWB〉、〈☛〉のときに、自動的に働きます。

対象機種については、カメラ本体使用説明書の主な仕様「ホワイトバランス」の項目をご参照ください。

## AF補助光について

被写体が暗すぎたり、コントラストがない場合は、内蔵されたAF補助光が自動的に光り、AFでピントを合わせやすくします。AF補助光は全てのEOSカメラのAFに対応しています。AF補助光の対応画角は焦点距離28mm以上で、有効距離は下表のとおりです。

| 位置 | 有効距離     |
|----|----------|
| 中央 | 0.6~10 m |
| 周辺 | 0.6~5 m  |

# 故障かな？とお考えになる前に

「ストロボが故障したのかな？」と考える前に、下記の例を参考にしてチェックしてください。

## ストロボが発光しない

- 電池が逆向きに入っている。
  - ➔ 電池を正しい向きに入れなおす。(p.8)
- ストロボ本体の電池が消耗している。
  - ➔ 30秒たってもフル充電にならないときは、電池を交換する。(p.8)
  - ➔ 外部電源使用時にも、ストロボ本体の電池を入れておく。(p.8)
- ストロボがカメラにしっかりと取り付けしていない。
  - ➔ ストロボの取り付け脚をカメラにしっかりと取り付けなおす。(p.9)
- ストロボとカメラの接点部分が汚れている。
  - ➔ 接点部分を清掃する。(p.9)

## スレーブが発光しない

- スレーブのワイヤレスモードが〈 **SLAVE** 〉になっていない。
  - ➔ 〈 **SLAVE** 〉に設定する。(p.36)
- スレーブが正しく配置されていない。
  - ➔ マスターの通信範囲内に配置しなおす。(p.38)
  - ➔ スレーブの受信部をマスター方向に向ける。(p.38)

## 電源が勝手に切れる

- オートパワーオフが働いた。
  - ➔ シャッターボタンを半押しするか、テスト発光ボタンを押す。(p.10)

## 表示パネル全体が点滅する

- ワイドパネルを引き出した状態で、バウンス位置にしている。
  - ➔ パネルを収納する。(p.20)

## 照射角の自動設定がはたらかない

- ストロボがカメラにしっかりと取り付いていない。
- ストロボの取り付け脚をカメラにしっかりと取り付けなおす。(p.9)

## 連動距離表示バーが点滅する

- 発光部のバウンス位置が7° 下向きになっている。
- バウンス位置を変える。(p.19)

## 写真の周辺、または下側が暗い

- 照射角を手動設定するとき、撮影時のレンズ焦点距離よりも大きい数値を設定した(写真の周辺が暗いとき)。
- 撮影時のレンズ焦点距離よりも小さい数値を設定するか、照射角をオートズームに設定する。(p.20)
- 撮影距離が近すぎた(写真の下側が暗いとき)。
- 2m以内の撮影では、バウンス位置を7° 下向きにする。(p.19)

## ストロボの露出がアンダー、またはオーバーになる

- 画面内に窓ガラスなど、反射率の高いものがあった。
- FEロック撮影を行う。(p.16)
- 写真が極端に暗い、または明るい。
- 調光補正を利用して、黒い被写体に対してはマイナス補正、白い被写体に対してはプラス補正を行う。(p.14)
- ハイスピードシンクロで撮影した。
- ハイスピードシンクロは、連動距離が短くなるため、被写体を連動距離表示の範囲内において撮影する。(p.17)

## 写真が大きくブレている

- 撮影モードを〈Av〉にして、暗い場所で撮影した。
- 三脚を使用するか、撮影モードを〈P〉にして撮影する。(p.12)

# 主な仕様

## ■型式

|         |  |
|---------|--|
| 型式      | クリップオンタイプE-TTL II / E-TTL / TTL自動調光ストロボ  |
| 使用カメラ   | EOS・Aタイプカメラ (E-TTL II / E-TTL自動調光)<br>EOS・Bタイプカメラ (TTL自動調光)                                    |
| ガイドナンバー | 58 (照射角105mmに設定 ISO100・m)  |
| 照射角     | 24~105mm (ワイドパネル使用時14mm)<br>・オートズーム<br>(レンズ焦点距離と画面サイズに応じて照射角自動設定)<br>・手動ズーム<br>・発光部回転 (バウンス撮影) |
| 閃光時間    | ノーマル発光: 1.2ms以下、クイック発光: 2.3ms以下  |
| 色温度情報通信 | 発光時のストロボ色温度情報をカメラに送信   |

## ■露出制御

|            |  |
|------------|--|
| 露出制御方式     | E-TTL II / E-TTL / TTL自動調光、オート/マニュアル外部調光、マニュアル発光   |
| 調光連動範囲     | ノーマル発光: 0.5~30m<br>(EF50mm F1.4 クイック発光: 0.5~7.5m (min) 0.5~21m (max)<br>レンズ使用時・ISO100) ハイスピードシンクロ: 0.5~15m (1/250秒時) |
| 調光補正       | 手動、FEB: 1/3段ステップ±3段 (手動、FEB併用可能)   |
| FELロック     | 〈FEL〉ボタン、または〈*〉ボタンによる  |
| ハイスピードシンクロ | 可能   |
| マルチ発光      | 可能 (1~199Hz)   |
| 調光確認       | パイロットランプ点灯   |

## ■ストロボ充電 (単3形アルカリ乾電池使用時)

|           |  |
|-----------|--|
| 充電時間/充電表示 | ノーマル発光: 約0.1~5秒/赤色パイロットランプ点灯<br>クイック発光: 約0.1~2.5秒/緑色パイロットランプ点灯 |
|-----------|--|

## ■ワイヤレスストロボ機能

|            |  |
|------------|--|
| 通信方式       | 光パルス   |
| チャンネル数     | 4  |
| ワイヤレスポジション | OFF / マスター / スレープ                              |
| 通信可能距離 (約) | 屋内: 12~15m、屋外: 8~10m<br>マスターに対して、左右±40°、上下±30° |
| スレープ制御数    | A、B、C、3グループ                                    |
| 光量比制御      | 1:8~1:1~8:1、1/2段ステップ                           |
| スレープ充電表示   | AF補助光点滅  |
| モデリング発光    | カメラの絞り込みボタンによる                                 |

## ■カスタム機能 ..... 14種類 (32項目)

## ■AF補助光

対応AF ..... 1～45点AFに対応（レンズ焦点距離28mm以上）  
有効距離（約） ..... 中央：0.6～10m、周辺：0.6～5m

## ■電源

本体電源 ..... 単3形アルカリ乾電池 4本  
\* 単3形ニッケル水素電池、リチウム電池使用可能  
発光可能回数（約） ..... 100～700回（単3形アルカリ乾電池使用時）  
ワイヤレス送信可能回数 ..... 約1500回（マスター発光OFF、単3形アルカリ乾電池使用時）  
節電機能 ..... 一定時間（約1分半～15分）放置で電源OFF（スレープ設定時60分）  
外部電源 ..... コンパクトバッテリーパックCP-E4

■大きさ ..... 76（幅）×137（高さ）×117（奥行）mm  
（防塵・防滴アダプター除く）

■質量（約） ..... 405g（ストロボ本体のみ、電池別）

- 記載データは全て当社試験基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

## ガイドナンバー (ISO100・m)

### ノーマル (フル) 発光・クイック発光

|              |                    |    |    |    |    |    |    |     |
|--------------|--------------------|----|----|----|----|----|----|-----|
| 照射角 (mm)     | 14                 | 24 | 28 | 35 | 50 | 70 | 80 | 105 |
| ノーマル (フル) 発光 | 15                 | 28 | 30 | 36 | 42 | 50 | 53 | 58  |
| クイック発光       | マニュアル発光の1/2~1/6と同じ |    |    |    |    |    |    |     |

### マニュアル発光

| 発光量   | 照射角 (mm) |      |      |      |      |      |      |      |
|-------|----------|------|------|------|------|------|------|------|
|       | 14       | 24   | 28   | 35   | 50   | 70   | 80   | 105  |
| 1/1   | 15       | 28   | 30   | 36   | 42   | 50   | 53   | 58   |
| 1/2   | 10.6     | 19.8 | 21.2 | 25.5 | 29.7 | 35.4 | 37.5 | 41   |
| 1/4   | 7.5      | 14   | 15   | 18   | 21   | 25   | 26.5 | 29   |
| 1/8   | 5.3      | 9.9  | 10.6 | 12.7 | 14.8 | 17.7 | 18.7 | 20.5 |
| 1/16  | 3.8      | 7    | 7.5  | 9    | 10.5 | 12.5 | 13.3 | 14.5 |
| 1/32  | 2.7      | 4.9  | 5.3  | 6.4  | 7.4  | 8.8  | 9.4  | 10.3 |
| 1/64  | 1.9      | 3.5  | 3.8  | 4.5  | 5.3  | 6.3  | 6.6  | 7.3  |
| 1/128 | 1.3      | 2.5  | 2.7  | 3.2  | 3.7  | 4.4  | 4.7  | 5.1  |

## Bタイプカメラとの組み合わせ

580EX II とBタイプカメラ（TTL自動調光方式カメラ）を組み合わせたときに、Bタイプカメラで使用できるストロボ機能と、使用制限のあるストロボ機能について記載しています。

お使いのカメラがBタイプカメラの場合、580EX II を自動調光で使用すると、ストロボの表示パネルに〈**TTL**〉と表示されます（Aタイプカメラは〈**ETTL**〉と表示されます）。

### Bタイプカメラで使用できる機能

- TTL自動調光
- ストロボ調光補正
- FEB
- マニュアル発光
- マルチ発光
- 後幕シンクロ
- マニュアル外部調光
- マニュアル発光によるワイヤレス増灯撮影
- マルチ発光によるワイヤレス増灯撮影

### Bタイプカメラで使用できない機能

- E-TTL II/E-TTL自動調光
- FEロック
- ハイスピードシンクロ（FP発光）
- 自動調光によるワイヤレスストロボ撮影
- 光量比を設定したワイヤレス多灯撮影



キヤノン株式会社

キヤノンマーケティングジャパン株式会社  
〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

## お客様相談窓口

製品の取り扱い方法、修理については、機種名をご確認のうえ、お買い上げの販売店、または別紙のお客様ご相談窓口、修理受付窓口にお問い合わせください。

## アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、製造打ち切り後7年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と、期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店、または別紙の修理受付窓口にお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

## キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

キヤノン株式会社／キヤノンマーケティングジャパン株式会社  
[canon.jp/eos-d](http://canon.jp/eos-d)

この使用説明書は、2007年2月に作成したものです。それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、別紙のサービス窓口にお問い合わせください。